

なっぴ

5 月号
vol. 123

巻頭特集

西成あり
ゆき 大塚あり

「西成の南国」

梅南3丁目付近にて撮影



< 著者プロフィール > エリオット・コンティ (Elliot Conti)

1990 年アメリカ合衆国の中西部オハイオ州生まれ。同州のデニソン大学で東アジア研究を専攻。2011 年冬に南山大学の留学生として初めて来日するも、東日本大震災 (3.11) のためにわずか 2 ヶ月で帰国。留学経験で湧いた日本に対する強い関心をきっかけに 2012 年に再来日 (名古屋)。2014 年に来阪し大阪市立大学大学院文学研究科に入学。専門領域は都市社会学と移民研究。2 年余にわたる西成区北西部での調査研究を修士論文「都市貧困を生きたニューカマー移民：スティグマ化されたインナーシティ地域のエスノグラフィーから」にまとめた。今年 3 月に社会学で修士課程を修了。4 月にはナガサキ工業 (名古屋市緑区) に入社し、在留外国人の就職を促進する新規プロジェクトを担当。個人ブログ「永遠の学生」：www.eiennogakusei.wordpress.com

前号では自己紹介を兼ねて、僕がいかに西成区鶴見橋で暮らしながら二年半にわたる調査研究をするにいたったのかを述べた。今回はその研究成果の一端を示そうと思う。僕は現地に住み込みながら、西成区北西部で近年増加している外国籍住民、とりわけニューカマー移民 (1980 年代以降に来日した新来外国人、以下「ニューカマー」と称する) にインタビューして (計 31 人、12 カ国籍)、彼らがどのような目で居住地を見つめ、日本社会でいかなる生活、経験と意識をもっているのかを明らかにしようとした。その成果は修士論文にまとめ、3 月 3 日にしなり隣保館で報告した。今回もこの研究をふまえてニューカマーの流入による西成区の近年の変遷をおおまかに描き、海外の研究者であり地域の住民でもあった筆者の観点からその意義と課題を唱えたい。

大阪で研究したこと

西成区は戦前から外国籍住民、特に朝鮮半島から移住し身を固めた在日コリアンが多い地域として知られている。しかし大阪市の統計データをみると、近年、西成区の外国籍住民が激増し多様化している様子が読み取れる。また総務省統計局のデータで全国 (1.7%) や大阪市 (4.6%) と比べてみても、西成区在住の外国籍住民の多さ (7.0%、7611 人) は際立っている (16 年 9 月末現在)。この数値は市内 24 区のうち 4 番目に多く、13 年時点より 1300 人ほど増えている。国籍別にみると現状が更に浮き彫りになる。表 1 は国籍別に西成区に住む外国人の人口を 3 つの時点 (02 年、13 年、16 年) で比較したものである。ここからわかるのは、13 年を機に外国籍住民の人口が顕著な増加傾向を示していること、また 13 年現在、韓国及び朝鮮籍の人口が総数の 55% になっていること

誰がどこから？人口動態に見える多様化

国籍	平成 14 年 (2002 年)	平成 25 (2013) 年 9 月末現在	平成 28 (2016) 年 9 月末現在
韓国及び朝鮮籍	6,558 人 (83.1%)	4,567 人 (71.4%)	4,199 人 (55.1%)
中国籍	749 人 (9.5%)	1,141 人 (17.8%)	1,616 人 (21.2%)
台湾籍	0 人 (0.0%)*	105 人 (1.6%)	201 人 (2.6%)
フィリピン籍	187 人 (2.4%)	223 人 (3.5%)	249 人 (3.3%)
ブラジル籍	119 人 (1.5%)	31 人 (0.5%)	40 人 (0.5%)
米国籍	38 人 (0.5%)	32 人 (0.5%)	34 人 (0.5%)
その他	241 人 (3.0%)	299 人 (4.7%)	1,272 人 (16.7%)
総数	7,892 人 (100%)	6,398 人 (100%)	7,611 人 (100%)

* データは大阪府市民局「外国人住民国籍別人員調査」による。2002 年の台湾籍の人口は、中国籍のなかに含まれている。

表 1 西成区の外国籍住民の人口動態

巻頭特集

お成あり ゆえに大阪あり

アメリカ人が居住経験から西成の魅力を語る

2 ニューカマー (新来外国人) の流入から西成の「いま」を考える

縁にまつわることは数多くあるが、エリオット・コンティさんとわたしたちの関係は「旅は道連れ世は情け」といったところだろうか。旅をするように彼が西成にたどり着いたのは今から約 2 年前のこと。とても陽気で気さくな彼とは旧知の友のように言葉を交わし合った。今年 4 月で西成を離れた彼に、2 年間の生活のなかで感じたことを綴ってもらうことにした。

とである。

他方で、13年から他の国籍が本格的に動いている。中国人が4年前から500人程度増加しており、しかも13年に居住していた3000人の「その他」の国籍住民が16年には1200人を超え、約4倍に急増している。資料の制約上「その他」の国籍はわからないが、全国と大阪市の傾向から東南アジアと南アジア諸国、とりわけベトナムからの人々と推測できる。つまり、西成区においてかつて圧倒的多数であった在日コリアンのコミュニティが、近年急速に流入しているニューカマーに取って代わられたつあり、外国籍住民の構成が確実に多様化しているのである。

なぜ西成？ ニューカマーの居住地選択

では、なぜニューカマーは大阪市のなかでも西成区に集中しているのだろうか。その答えは、西成の地域性とニューカマーの転入過程に求められるだろう。まず、13

年以降に西成区内におけるニューカマーの急増が、地域の様々な変更と時期的に重なり、密接に関係していることを指摘したい。周知のとおり7年ほど前から新今宮駅付近で外国人観光客・バックパッカー向けのゲストハウス(安宿)が増え、現在も繁盛している。この「西成型観光業」が定着し地域に影響を及ぼし始めると、より多くの世間の注目を集め、西成特区構想の経済活性化策の柱として組み込まれたぐらいである(鈴木亘「経済学者 日本の最貧困地域に挑む」(2016)を参照)。

しかし、ゲストハウスが引きつける在留外国人は主に旅行か短期滞在であり、住民とみなされる「中长期滞在」に至る前にほとんどが地域を離れていく。むしろ、ニューカマー流入のより直接的な要因は日本語学校・留学生の増加と保証人不要または敷金・礼金不要の不動産物件の多さである。西成にある2つの日本語学校が区内の寮に住まわせている生徒に加え、近隣地



おとなりさんの日本語学校
(今号の「さんこんかんこん」でも取り上げられています。)

域にある数々の語学学校から多くの留学生が自主的に西成を居住地に選んでいる。現在、西成区出城にある日本語学校には中国、ベトナム、タイとミャンマーから270人もの留学生が在学しているそうである。当校のスタッフによると、学校は基本的に2年制で、日本での就職や進学を目標に掲げているが、叶わなかった場合、留学生は帰国を余儀なくされる。

西成区の不動産物件については

響を与える可能性がある。しかも移民(との接触・交流)は多くの場合文化的多様性とイノベーションの源泉である。西成区においても両者の関係づくりに努める必要があるのではなからうか。

どうすればいい？ 今後を考える

「行けば何とかなる」場所として知られてきた西成区は、現在多様な経歴と属性をもつニューカマーの受け皿になっている。時代によって流入者の出身国はまちまちだが、この地域は今もなお不利な立場に置かれてしまふ人々、とりわけ様々な障壁のために一般社会に参入しにくいニューカマーにとって魅力的な居住地であり続けている。今後も、避けることのできないグローバル化と日本政府の打ち出した「留学生30万人計画」に支えられ、西成区のニューカマーはますます増えていくだろう。ただし、短期滞在の傾向が変わらなければ、ニューカマーの出入りが激しくなるばか

りであろう。どうすればニューカマーが持続的に地域社会に関わり貢献できるようになるのだろうか？調査の結果からいくつかの手がかりを挙げてみたい。まず、インタビュ対象者は滞在の長短を問わず、西成を居住地として称賛し、誇りを持って生活する傾向がある一方で、前述のとおり、ほとんどが日本人・日本社会との個人的なつながりを持っていない。言葉の壁を乗り越えられないニューカマーは交流を求めても概して報われず、日本人住民と分離したまま暮らさざるをえない場合が少なくない。

こうした現状を改善すべく、西成区で外国籍住民の包括的な支援に取り組む新たな組織を設立することが重要な意味を持つだろう。人権とまちづくりの名の下に、日本語教室や文化交流会といった事業を通してニューカマーと地域社会の接点を増やし、相互理解を促進していく。こうした生活支援から生じた「国籍をまたぐネットワークづくり」の意義は大きく、ニュー

カマーの定着や住民間に共有された共同体意識に結びつくことが期待できる。また、個々の地域住民が同じ生活者としてニューカマーを受け入れる姿勢も、この取組みを支える上で大事である。容易ではないかもしれないが、実現できれば、地域の活性化の原動力になるに違いない。



保証人不要マンション



フィリピン料理屋



ネパール・インド料理屋

みんながみんな

ver.1.1

日本の大学に入るために頑張ってるで 国際日本語教育学院!

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない!小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

23時間目: 国際日本語教育学院



2015年5月の奈良遠足

にしなり隣保館の東隣の「国際日本語教育学院」には毎朝たくさんの若い留学生が通ってきます。以前からどんなことをしているのか気になっていたもので、今回は取材も兼ねてお話をうかがってきました。

日本の学校入学に向けて 260人が勉強中

現在、1年3ヶ月から2年かけて日本語を学びに来る生徒が260人います。年齢は17〜23歳。母国で日本語を勉強した上で、日本の大学・短大・専門学校へ入学するために、さらに当校で日本語を勉強されています。



学校の玄関。お昼に生徒が休憩

月曜日から金曜日までの午前(9時〜12時25分)7クラス、午後(12時45分〜16時10分)7クラス、合計14クラスがあります。筆者は、生徒のほとんどが中国から来ているのだから、うと思込んでい



【飯島照喜】桜、さくら、サクラと思えばもうヒラヒラと。来年こそ、愛でる余裕をもちたいものだ。



2016年の京都嵐山遠足

たのですが、その約3分の2がベトナムで、その他にミャンマー、タイ、ネパールなどからも来られているそうです。

生活全般を応援する体制が心強い

国際日本語教育学院は勉強だけでなく生活応援の仕組みも充実しています。校舎の3〜5Fは男性寮になっていて、トイレ、シャワー、エアコン、冷蔵庫がついて1ヶ月2万5千円で居室を提供しています。近隣には女子寮もあります。



2015年の入学式

また、オリエンテーションでは、日本の生活に必要な、あいさつやゴミの捨て方など日常的なことがらだけでなく、犯罪や詐欺に遭わない

ように在留カードは簡単にコピーしないことなどを丁寧に説明します。さらにアルバイトの説明にローソンやマクドナルドの社員が学校に来て、実際に働きに行くケースも少なくありません。

郵便局や病院、国民健康保険など様々な書類や手続きなどについても4人のスタッフがサポートしているそうです。

遠足・スポーツ大会など イベントも多数実施

教室で勉強するだけではなく、昨年5月には遠足に行きました。ただ、たくさん歩いてご飯を食べて帰るという活動はあまり喜んでもくれないそうです。「遠足」というのは日本ならではの文化習慣だったのかもしれない。

9月には学校から一番近い大正区のスポーツセンターでバトミントンやバスケット、綱引きなどのスポーツ大会、今年2月には、西成区民センターのホールで日本語スピーチ大会が実施されました。

お互いを知ること つながりも深まる

こうした取り組みは日々行われていますが、生徒さんたちにとって日本人と話をするのは緊張したり、輪には入っていったりするのには勇気がいるそうです。それは我々も同じで、言葉が通じるのか不安なため外国の方に積極的に話をしていくことはこれまでにありませんでした。今回の取材をきっかけに、にしなり隣保館としても日常のつながりを深めていきたいと感じました。

お問い合わせ
大阪府大阪市西成区出城2-2-18
06-6567-9600
http://www.nitigo.jp/index_jp.php

レポート: 寺嶋公典
沖田一志



【沖田一志】我が家のキャンプでは七輪を使います。ホームセンターで購入した安物ですが、何年も使い込んでいます。ひび割れただけで使う度にかけらが落ちてきます。でも、愛着があって...



応援室楽しい水曜日

たい人や人間関係づくりに苦手意識のある人が、各プログラムに参加しています。このプログラムに「楽塾」の佐々木さん（『なび』編集部）がスタッフとして来てくれます。

3つ目に、「ぐ〜てん子ども食堂」です。月2回、近所の子ども達と、楽しく夜ご飯を食べています。

ぐちやまぜが自然かも

3つの活動はもと対象となる人が異なっていました。しかし結果的に、ぐ〜てんには、子どもから若者・中高年まで、誰が集っても違和感のない居場所となってきたのです。

例えば、子ども食堂は、ぐ〜てんの若者も、居場所くらし応援室の参加者も手伝ってくれます。子ども食堂に来ている子どもも放課後に立ち寄り、その場に居合わせた若者や、中高年の参加者と一緒に遊んでいます。

また、地域の人も集える場所になるきっかけづくりとして、隔月で物品の寄付を募ったフリーマーケット、年末恒例のカレンダー販売会などもしています。これらの催しが地域にも少しずつ受け入れられ、楽しみにしている地域の方々が「自然に立ち寄れる」場所になりつつあります。様々な人が集うことで、誰にとっても数居の低い場所になっているなあと実感しています。

このような年齢、性別に関係なく、ぐちや



フリーマーケットの様子

まぜ（多世代交流）で自然に立ち寄れる場所があることは、孤立しがちな日常に、わずかながら安心を提供できている気がします。人づきあいの苦手だった方がぐ〜てんで新しい出会いのきっかけをつかんでくれることもあります。

今後、ゆっくりでもいいので「ずっと（ZUTTO）」を目指して、居場所を続けていきたいと思っています。

文責…柴垣 恭子

ぐ〜てん（NPO法人ZUTTO）

大阪府豊中市庄内西町 4-25-5
Tel : 06-6842-7129 Fax : 06-6842-7139
Eメール : guten.zutto@gmail.com
URL : <http://guten.npo-zutto.com/>

『なび』をつくる（株）ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.37

ぐ〜てん
(NPO法人 ZUTTO)



毎週1回、『なび』の編集スタッフの一人が豊中市市内を訪ね、お手伝いしている活動が「ぐ〜てん」です。散髪屋を改修した事務所に子どもから中高年までが集い、一緒にワークをしたり気ままに過ごしたり、そんな居場所です。今回はぐ〜てんの運営に奮闘している柴垣さんに活動を紹介していただきました。

豊中の下町で

私たち NPO 法人 ZUTTO は「ぐ〜てん」という居場所事業をやっています。ぐ〜てんがある豊中市庄内は下町情緒が残る人と人の距離が近い地域です。「ぐ〜てん」とは「良い」という意味のドイツ語です。誰にとっても、良い場所、また、みんな良い存在という想いが込められています。2010年9月に若者の居場所としてスタートしたぐ〜てんですが、今では、大人も、子どもも、若者もともに集える居場所となりました。その秘訣はぐ〜てんの3つの活動にあります。

3つの活動で「ぐ〜てん」

1つ目は、開所当初から行っている「若者の居場所ぐ〜てん」です。「誰かに会いたいなあ」「どこかに行きたいなあ」と思う若者が、毎週集まります。

2つ目は、市の受託事業「居場所くらし応援室」です。若者から中高年まで、しごとにチャレンジしたいけどゆっくり時間をかけ



(左) 子ども食堂 (右) 子ども食堂調理



【田岡秀朋】地道で着実な広告宣伝が実を結び、製靴塾の新入生は8人。中国では「八」が末広がりで縁起のよい数字らしい。これからが楽しみ。そういえば、ナンバープレートでも8並びを見かけるのは国際化かなあ？



【谷口円】ずっと前からオールナイトで河川敷でダンボールハウスを作って、その中で朝ごはんを食べるとい遊びがしたいのですが、なかなか実現にいたしません。そろそろ本気を出さないと…

号外 マナビバ！通信

「まずは、おいでよ。」ゆ〜とあいには中学を卒業してから進路と一緒に考える場所と時間があります。そんな“フリースペース マナビバ！”の徒然な日常をお伝えします。



はじめまして！あら還の新人です。

この4月からマナビバのスタッフになった阪井と言います。これまで比較的若いスタッフが多かったマナビバに、いきなりあら還！？が・・・しかし、年齢60をこえても、遊ぶことには自信があります。けん玉道6段、マナビバの利用者の方は、毎日、けん玉の認定がうけられる特典があります。マナビバはほっとする場所です。気軽にお立ち寄りください。

フリースペース アソビバ！？

マナビバのメンバーは、ボードゲームをしたり、パソコンやタブレットで遊んだり、おしゃべりしたり、自由に過ごしています。4月には雨ニモマケズ、みんなで大阪城に花見に行ってきました。アソビバ！？ではという疑問を持たれるかもしれませんが、もちろん進学や就職したいと想いにもよりそって応援しています。本当に。

文責：阪井 茂

マナビバは毎週火・木曜日の10:00～16:00、ゆ〜とあい2階でオープンしています。 電話：06-6561-8801 Mail:info2@human-ref.jp

hidarimaki

ぼの細道



DVDで「独裁者」を購入。約60年近くも前に見たチャップリンの映画。体をかけて人間の自由を説く偉業！これ第二次大戦中に製作の作品ですが、面白くて凄い！

啓蒙や国産の華のえせ杞憂

水ぬるみ近ごろ炊事呆けてる

法と武に血肉削がれてユタの唄

空爆のごとき雲間に星凍てる

更地なり隣家ひさしく日脚伸び

マスクが鼻のかたちでおちている

い湯がげん

「西成自治区」っておもしろい！

大阪市が導入を提案している総合区だが、3月の世論調査では、「都構想」33%「今のまま」46%に対し「総合区」は12%と、支持は少ない。知名度も理解度も低いのは仕方のないことで、徐々に理解が広がっていくのだろうが、市民の中には最初のボタンから誤解されている節があるから、一言申し上げたい。

総合区は現行24区を廃止し、8つに合区するものだから、慣れ親しんだ西成区がなくなるから反対だという意見がある。そうじゃない、24区が「地域自治区」にバージョンアップするのが総合区だ。西成区は「西成自治区」となり、そこに今の区政会議が名称を「西成

地域協議会」と変えて再設置される(同名の区政会議は総合区に設置される)。この地域協議会には、区民各界各位から委員が選出され、自治区長も選任され、総合区長への意見具申の権利も与えられるから、今以上に区民が市政に参加できることになる。だから、バージョンアップなのである。総合区は地域自治区を束ねる形で8区設置され、西成は住吉、住之江と一緒に「〇〇(総合)区」となる。頓智問答みたいだが、区と区を「合(併する)区」というより、区はそのままで「総合(する)区」なのである。

だから、「一番人気」の「今のまま」が良いという市民にとっても、24区が自治区として残るという意味では「今のまま」なんだから、一考に値する総合区案だと思う。今の24区のまま総合区になれば良いという穿った意見もあるが、それは総合区じゃない。公務員や議員にお任せの市政ではなく、市民が観客から選手になるぐらい参加していくことで、もっと必要な市民サービスを創り出していこう、その財源つまり税負担のことも理解しあっているという点では、関平松、橋下、吉村歴代市長の意見にそんなに隔たりはなかった。それほど市民の関心も高まったので、橋下市長が「特別区(都構想)」を住民投票にかけたが、僅差で否決されたので、次の案として総合区が登場したわけだ。

さらに、総合区の知られざる点は、小学校区を単位にした「地域活動協議会」が設置されることだ。今の「地活協」と見た目は同じだが、行政主導の現在の行政区と違って、市民参加の総合区―地域自治区―地域協議会とつながるわけで、最も身近な小学校区から市政に参加する道筋が敷かれることになる。

㈱ナイス代表取締役
富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司] ある日、近くで捕まえたという小さなヤモリを男の子が見せに来てくれた。西成の自然は「小さい」けれども、男の子の好奇心は大きかった。昔の自分もそうだった。

[西田吉志] 箕面市にある「こどもの森学園」に行ってきた。NPO法人が運営する無認可の小・中学校。公立学校とは全く違う授業形態に増え続ける入学希望者。義務教育の一方で、無認可校のニーズが存在する。

たのびの 3くふうたま



通っていた大学の正に隣町で、春から新たな仕事が始まった。久々に最寄り駅から大学通り商店街を歩くと、店並は見事なほど様変わり。でも懐かしのあの食堂は今も健在。(安田拓也)

りずむ

パン屋さんの朝は早い。朝の2時、3時には起きて仕込みをし、発酵させて、オープンで焼いて、朝早く出勤する人へ、ふっくら出来立てを届ける。夜の11時近くまでやっている老舗の喫茶店がある。勿論出てくるのはティーカップに入ったコーヒーと角砂糖。カチャン。といい香りで、仕事帰りにゆったりとここちよい。

朝の9時になるとおばちゃんが、いつも床や手すりや階段をピカピカに。廊下の窓をガラッ。トイレの扉をカターンと、風の音。さっさっさっ、とほこりをかき集める、汗の音。夜中の2時ごろ、廊下がギギギギギーときしみ、カターンと扉が開いて、しばらくして、手すりのスースーと、すり足がゆっくり戻っていく。

ワイワイと花見や新年会が終わり、しんしん。と夏の足音がまだ遠くから、でもゆっくりと近づいてくる。

「いつものごとだけど、いつもと少〜しちがう、あめの音。」

地域の縁を心でつなぐ

松崎 心 心の時間

当たり前前の反対は「ありがたい」と聞いたことがありません。ありがたいは、「有ること」が難しいが語源です。家族がいて当たり前、今日一日過ごせることを当たり前と思うことと、有り難いと思う心では、幸せが全く違ってきます。今の暮らしを当たり前と思っていると、喜びよりも「これが足らん。あれが足らん。」と不平不満の毎日を過ごしがちです。しかし、有り難いと思う心が芽生えたと、これまで気づかなかった幸せを感じることが出来るのです。

先日、あるご老人が自宅で亡き母のご法事をお勤めになりました。その際に「元氣な時は、親の法事をするのだから、息子も娘が手伝うことは当たり前前と思っていましたが、身体が不自由になってみると、子ども達が手伝ってくれることが、こんなにも有難いことかと気づきました。私は本当に幸せです。」と語ってくれました。身体は年を重ねることで次第に衰えますが、心は命ある限り成長するのです。年を重ねることで、心が「優しく」、「賢く」、「強く」なりたいたいものです。

松向寺 通法

COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



なび編集長 寺嶋公典

にしなり隣保館を活用して、毎週火・土に無料で行われている「にしなり☆こども食堂」は毎回40～50人が参加している。「無料で飯を食べさせたるから、片付けや掃除ぐらいさせるべき」という声をよく聞く。「やったってるから、してかえせ」というのは理屈では正しいかもしれないけど、やさしさは感じない。毎日、家で親と一緒に晩ごはんを食べているこどもたちは片づけをして、「ありがたい」と言ってる？こどもたちが本当に落ち着ける場所は、まず義務があるのではなく、しんどい自分をありのまま受け入れてくれる場所ではないだろうか？自分がやさしくしてもらって、落ち着いた時にまわりが見えて、他の人にやさしくしたいと思うようになるのではないだろうか？言われたから義務でお手伝いをするのではなく、自分から「何か手伝うことない？」って言えるようになるまで待つ必要があるのではないだろうか？人は自分が大切だと思えた時に、はじめて人にやさしくできると思う。

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび5月号(vol.123)

発行日:2017年5月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

発行人:代表取締役 富田一幸

住所:大阪市西成区長橋 3-6-33

電話:06-6563-1156

E-mail:info@nice.ne.jp

url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典

編集:飯島照喜、沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、

西田吉志、安田拓也、若松司(あいうえお順)

イラスト:hidarimak デザイン:谷口円